目黒稲門会会報

（題字：眞仁田　勉　初代会長）

第58号　2013年3月

発行人：大野　利幸　編集長：地田　博昌　事務局長：小杉　哲

事務局：〒152－0023　目黒区八雲4－9－14　Tel 090－7825－6270

2013年　新年会を開催

2013年の目黒稲門会新年会が、1月20日（日）目黒雅叙園シリウスの間にて開催されました。来賓2名、会員、ご家族他　計80名が参加され、盛大な新年会となりました。

午後4時、石川智子幹事の司会で開会。第1部「演芸」に出演の落語・めだか亭めだかさん（本会会員河村晋彦氏　昭52教育）、ご友人の奇術・松旭斎美登さんを紹介しました。

にぎやかな出囃子にのせて、振袖姿で登場の松旭斎美登さんは、見事な手さばきで場内を沸かせました。特に、客席の手を借りての奇術では、指名された参加者の代表が文字を記入したハンカチが消えて、パンの中から出てくると言うもの。演技者にも参加者代表にも惜しみない拍手が送られました。

トリはめだか亭めだかさん。演壇にしつらえた一段と高い高座に上り、まずは新年厄払いの口上。めでたく不老長寿、健康を祈念して頂きました。演題は「目黒のさんま」。目黒区内では「さんま祭り」など何かにつけ話に上る「目黒のさんま」も、実際に寄席へ足を運ぶ機会はなかなか取れないもの。皆様大いに期待されての口演でした。30分に及ぶ熱演で、大いに笑い、江戸時代の目黒に想いを馳せ、大いに勉強になった一席でした。

10分の休憩をはさんで、第2部懇親会は笠谷興一朗幹事が司会を務めました。はじめに大野利幸会長より挨拶がありました。

（大野会長挨拶要旨）明けましておめでとうございます。本日は、新年会のイベントとして本会の会員である河村晋彦（芸名　めだか亭めだか）さんにお願をして、松旭斎美登さんの奇術、そしてめだか亭めだかさんの落語と言う企画で、楽しい一時を過ごすことができました。有難うございました。

本年は、平成11年に目黒稲門会が設立されてから14年目になります。また多くの方がこの地域稲門会を第二の人生の交流の場として活用しています。本会の会合に積極的に参加し元気に過ごされている大先輩が多数居られます。本日もご出席頂きました阿部さん、樋口さんは、今年で91歳になられます。これからもお元気で目黒稲門会の活動に叱咤激励を賜りたいと存じます。

当会の活動を支えているのは、各部会の活動です。現在12の部会があり、各部会長の努力により参加者も増加しております。私が会長に就任してから、この趣味の部会を増やすことを一つの目標としてきました。新たに昨年末より早稲田スポーツ観戦部会が立ち上がる段階にあります。今後とも既存の部会共々新しい会の活動にご協力をお願い申し上げます。

ここで、来賓の青木英二目黒区長の挨拶に続き、乾杯の発声は地田博昌幹事。各部会活動の益々の発展を期し、元気な一年を祈って乾杯となりました。

これより歓談に移り、会員よりご提供の銘酒が紹介されました。おいしいお料理とビール、熱燗、オ

ンパレードのお酒で楽しいおしゃべりの輪が広がりました。

式次第にない余興で、司会より田島順一郎幹事にハワイアンの演奏が指名され、あの人にあんな趣味があったんだと面目を一新する場面もありました。

恒例の初参加者ご紹介では、石崎絢子様、柴田大介様、箕輪由佳様が紹介され、それぞれ挨拶がありました。石崎様は、昨年の総会でアトラクションのチアリーディングにも参加されていらっしゃいました。３人の皆さんが歓迎の拍手を受けました。若木会の躍進著しいものがあります。

新年会初参加者（左より箕輪、柴田、石崎の各氏）

続いて、各部会長より部会活動の紹介があり、稲垣ボランティア活動推進部会長以下12名の部会長より、最近の活動状況を報告、会場の皆さんの参加を呼びかけました。

宴たけなわにして、恒例の校歌斉唱となりました。吉田博行幹事長のエールで右手を高く上げ、左手を腰に、声高らかに都の西北を斉唱しました。ここで牧野武夫幹事より感謝の挨拶があり、三本締めでめでたくお開きとなりました。　　（田島　記）

新年会出席者（敬称略、五十音順）

（来賓）

青木英二・目黒区長、松旭斎美登

（会員・ご家族・ご友人）

朝比奈義雄、浅海敏之、阿部喜久雄、荒瀬修一郎、安藤　孝、安藤虎雄、石川智子、石川純子（母上）、石崎絢子、市瀬一江、市瀬達夫、伊藤源喜、伊藤　悠、稲垣博信、猪名川一雄、井村正陽、岩佐幸子、岩佐好恭、岩崎春雄、岩瀬　暁、鵜野洋治、大内秀明、大久保健治、大杉邦雄、大竹一子、大野利幸、大野幸子（夫人）、大橋ヒデ子（友人）、小倉利允、影山信輝、笠谷興一朗、加藤榮護、加藤玲子（夫人）、金井豊男、狩野俊夫、川井信義、河村晋彦、小池早苗、郡山弘文、郡山富子（夫人）、小杉　哲、後藤克彦、佐々木芳子、佐藤喜孝、柴田大介、嶋田勝彦、島田久家、鈴木政雄、田島順一郎、田畑　繁、地田博昌、千野逸平、手塚仁雄、外岡　明、外岡ルリ子（夫人）、永井正孝、中上美代子、中島侑三、永田耕治、中西元樹、林　重雄、林田雅敏、樋口定廣、樋口俊彦、牧野武夫、松戸　猛、眞仁田　勉、水野弘文、箕輪由佳、村上　柾、村上　満、村田信之、村山　弘、森家一三、保井　正、横山　大、吉田博行、吉本政治、

各部会からの案内・報告

ウォーキング部会

今年はことのほか寒く皆様いかが過ごされていますか。このようなときこそ健康のために一緒に歩きましょう。

実施報告

12月　鬼平犯科帳を歩く
　　三田の寺町から品川へ　　参加15名

１月　横浜の廃線跡を歩く
　　横浜臨港線、山下臨港線から山下公園へ
　　参加17名

２月　都心の公園を歩く
　　小石川後楽園、浜離宮恩賜庭園、旧芝離宮恩賜庭園

今後の予定

３月　三浦氏や北条氏の祈願所から徳富蘆花の小説の舞台を歩く
　　日　　時　　３月19日（火）　午後１時
　　集合場所　　ＪＲ逗子駅改札外

４月　高幡不動尊から南平丘陵を歩いて多摩動物公園へ
　　日　　時　　４月13日（土）　午後１時
　　集合場所　　京王線高幡不動駅南口改札外

５月　鬼平犯科帳を歩く
　　芝から麻布へ
　　日　　時　　５月21日（火）　午後１時
　　集合場所　　日比谷線神谷町駅改札外

参加予定の方は牧野までご連絡ください。

美術・歴史鑑賞部会

昨年の12月19日（水）、東京都美術館で『メトロポリタン美術館展』を鑑賞しました。参加者14名。

メトロポリタン美術館の収蔵品の数は約200万点と言われていますが、その中から注目されている作品133点が出展されました。

巨匠たちの傑作―ティントレット「モーセの発見」、レンブラント「フローラ」、ウジエーヌ・ドラクロワ「嵐の中で眠るキリスト」やターナー、ゴッホ、セザンヌ、モネ、ルドン等の作品が楽しめました。

鑑賞後は上野精養軒で定番のカレー、ハヤシライスを食べて解散いたしました。

次回の鑑賞会は「奇跡のクラーク・コレクション―ルノワールとフランス絵画の傑作―」三菱一号館美術館を予定しています。

・日　時：３月13日（水）10時15分入口前集合
・場　所：三菱一号館美術館（丸の内2-6-2）
・入場料：1,300円
・昼　食：各自負担

参加申し込みは３月10日までに後藤克彦まで連絡お願いいたします。

麻雀部会

12月９日（日）武蔵小山　麻雀クラブ　サンにて2012年最後の第48回麻雀大会が16人参加のもと開催されました。

和気藹々の競技の結果、優勝は鵜野、準優勝は本田氏、３位は大久保氏でした。大会終了後、中華料理店・井門にて忘年会を実施、部会員相互の親睦を一層深めました。

２月17日（日）　第49回定例麻雀大会
　　武蔵小山　サンにて開催

今後の予定

４月13日（土）　第34回３区麻雀大会
　　渋谷スリーハンドレッドにて開催

麻雀部会長　　鵜野洋治

俳句部会

俳句部会は現在17名で月例『萩句会』を楽しんでおります。句会の他に吟行会（随時）・初心者入門教室（随時）なども行なっておりますので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

第48回「萩句会報告」　（順不同）

川井　素山　正座して点茶待つ間の淑気かな
保井　寶正　初日記預金の残をしるしけり
牧野　里山　木枯らしに吹き上げられて鳴く鳥ぞ
青木　英林　水仙の香りに書斎引締まる
後藤　克彦　餅一つ妻に減らされ老いの春
丸山酔宵子　雪晴れて浅間の煙り空に溶け
菊地　崇之　焦げて良し堅くもうまし焚火の芋
米田　文彦　ひとときをただ眺めゐる朝の雪
佐久間　喬　祝い膳祖父が座りて淑気満つ
永井　正孝　コンクリートのモダンな門に飾りかな
佐々木彩女　淑気満つ茶会しわぶきひとつ無く
阿部　一掬　碧羅の天鷹一つ舞ひ淑気満つ
安藤　虎酔　冬ざるる津波に耐へし残る松
吉田　啓悟　朝日さす軒の氷柱のなほ太く
佐藤　喜仙　早暁の西空の月淑気満つ

俳句部会長　佐藤喜孝

カラオケ部会

今回は、最近のカラオケ部会でどんな歌が歌われているかをご紹介しましょう。毎月の例会（第２金曜日午後４時～７時）に参加される会員は約15人、歌う曲数は一人平均３曲ぐらいでしょうか。

最近の例会――忘年会を兼ねて開かれた去年12月と今年１月の、２回の会合で歌われた約90曲から、無作為に35曲を抽出し、ここにご紹介します。年代の古いものから並べてみました。

会津磐梯山（民謡）、隅田川（民謡、霧島昇）、アヴェ・マリア（キャサリン・ジェンキンス）、緑の地平線（楠木繁夫）、愛染草紙（霧島昇）、みかんの花咲く丘（川田正子）、東京の灯よいつまでも（新川二郎）、街のサンドウィッチマン（鶴田浩二）、風雪流れ旅（北島三郎）、悲しい酒（美空ひばり）、北の旅人（石原裕次郎）、細雪（五木ひろし）、筑後川（尾形大作）。

二人でお酒を（梓みちよ）、喝采（ちあきなおみ）、奥飛騨慕情（竜鉄也）、今は幸せかい（佐川満男）、あばれ太鼓（坂本冬美）、星降る街角（日高　仁）、襟裳岬（森　進一）、ある女の詩（美空ひばり）、さざんかの宿（大川栄策）、誰もいない海（トワエモア）、新潟ブルース（美川憲一）、青葉城恋歌（さとう宗幸）、時には娼婦のように（黒沢年雄）。

時の流れに身をまかせ（テレサ・テン）、はぐれ草（香西かおり）、男のうそ（三山ひろし）、母（北条美樹）、ワシントン広場の夜は更けて（ダニー飯田とパラダイスキング）、ディスティニー・ラブ（八代亜紀）、別れの朝（ペドロ）、東京暮色（大月みや子）、夜明けのブルース（五木ひろし）。まあこんなところです。

皆さんも気楽な気持ちでご来場下さい。
会場は「コートダジュール目黒駅西口店」（TEL 03-5436-2688）です。

カラオケ部会長　田畑　繁

旅行部会

１月25～26日の１泊２日で北海道「厳冬のオホーツクを見ながら温泉に浸かる旅」を17名参加で実施いたしました。

初日の新千歳空港に着陸した機内で、オホーツク紋別行きの全日空機の欠航がアナウンスされました。さて、これからどうなるか全員途方にくれました。

詳しくは次号での道中記を、参加の村山さんが投稿されますのでお楽しみに。

旅行部会長　井村正陽

囲碁部会

１月７日、今年最初の例会を行い、９名の方が参加され熱戦を展開されました。出だしとしては、まずまずかなと思います。寒い中ご苦労様でした。
昨年は年間延べ117名（一昨年は105名）の方が参加されましたが、今年も昨年同様ご協力のほどお願い申し上げます。

昨年12月は、平成24年締めの例会として囲碁忘年会を行い、16名の方が参加され、４組に別れ各組でそれぞれ覇を競いましたが、結果的に杉山氏（品川からの応援）、蠣崎氏、永田氏、鵜野氏が各組で優勝されました。その後、小料理屋で楽しく和気藹々とした懇親会を行って散会しました。

平成25年の予定につきましては、会員各位にはすでにご連絡してありますが、念のため申し添えますと、５月の第２月曜日以外は毎月第１月曜日です。

囲碁部会長　大久保健治

「早稲田スポーツを観戦する会」（仮称）

「早稲田スポーツを観戦する会」を創ろうという意見に押され、早速12月２日（日）肌寒い国立競技場に、関東大学ラグビー対抗戦の早明戦を、仲間15名で寒さを吹き飛ばす熱気を持って応援しました。

早稲田は筑波と帝京に敗れていて優勝争いからは脱落していましたが、明治は勝てば優勝、また伝統ある早明戦とあって大勢の両校応援団の歓声の中で試合は始まりました。

試合は前半一進一退でしたが13－19と明治が僅かなリードでハーフタイムを迎えました。ハーフタイムでは寒かったせいかトイレに長蛇の列をつくり、後半のキックオフに間に合わない方も沢山いたようです。思わぬところで東京オリンピックの時に建てられた競技場の古さを感じました。

後半が始まると、早稲田の猛攻が始まり連続トライで32－21と一時は11点差リードして勝利は間違いなしと確信をしました。しかし、ゲーム終了まで残りあと数分、粘る明治の猛攻が始まり、防御に回った早稲田が反則を重ね、認定トライを取られ6点差まで詰め寄られました。そしてロスタイムに入り、明治の執念の猛攻がラストプレーでのトライを生みコンバージョンが決まったときにノーサイドのホイッスルが吹かれ、32－33の１点差の逆転負けとなりました。結果、明治は帝京、筑波と同率優勝を飾りました。

早稲田が負けたことは非常に残念ですが、試合内容は応援に興奮して声が枯れるほどでした。参加した全員が満足のいく観戦だったと思いました。

試合終了後、青山にあるお店で反省会を兼ねた懇親会で盃を交わし、同じ店にいた明治の応援グループとお互いの健闘を称え合いエールの交換を致しました。

「早稲田スポーツを観戦する会」（仮称）は活動を開始したばかりです。今後、いろいろな観戦機会を設けて部会に立ち上げて行きたいと望んでいます。会員の皆様の暖かいご理解ご協力そして観戦機会には積極的な参加をお願い致します。

世話人　　狩野俊夫

ようこそ！部会活動へ

俳句部会へのお誘い

俳句部会長　　佐藤喜孝

俳句をご一緒にやりませんか、と声をかけられて即座にお願いします、という方は例え俳句に多少の興味を持たれていても皆無に近いと思います。なぜなのでしょう。

多くの人は俳句は難しくてとても私にはつくれないと思い込んでおられます。なぜ難しいと思うのか。季語とか切れ字とか日常使わない言葉をつかう、何を詠んでいいか分からない、詠みたいことがあっても17文字で表現することはとても出来そうにない、等々。

ですが実際はそれほど難しいことではないのです。きちっとしたステップをふんで、俳句の道に入ればそう難しいこと事はなく、すぐに俳句の魅力に引き付けられるでしょう。

ちなみに俳句の効用を記しますと

①観察眼が磨かれ、自然・人事に対する興味が増す
②俳句は人生の記録である
③俳句は右脳を活性化し、認知症になりにくい
等の３点があげられます。

俳句部会の活動内容

①初心者入門教室の開催（随時）

俳句を作るために最小限必要な物はなにか。
季語とはなにか。　切れ字とはどのようなものか。
俳句の約束事。
俳句の歴史と現状。
何をどのように詠むか。
パターンに基づいた俳句実作。

これらの内容をテキストに基づき、月１回６ヶ月で卒業です。参加者は必ず６ヶ月後には俳句が作れるようになります。

②月次吟行の実施。

吟行とは、俳句を作るために公園、寺社、花の名所等へ行くことです。一人でもよし、組織単位でもよしです。新鮮な対象にふれることにより、新たな感動をえられますので、それを俳句にします。

③月次句会の実施。

俳句を独学する方もおりますが概して一人よがりの俳句になってしまいます。作品を毎月句会に持ち寄り、仲間の評価、講師の評価を得ることにより上達する文芸で、「座」の文学と言われています。勿論、句会終了後の反省会も楽しいものです。

会員の広場

部活動に励む人たち（続）

米田文彦　（昭和41年　政経）

「今の学生は昔と比べてどうだい？」「最近の若いのはしようがねえなあ！」「今の若い人は大変だよな、本当によくやっていると思うよ！」年配の方々から様々な声を聞く。実際、どうなんだろうか？

今も昔もいろいろな人間がいるのであって、よく判らない、と言ってしまえば身も蓋もない。それでも時々「自分の頃はこんな奴はいなかったな」とか「いや、たいしたもんだな」と思うことはある。

そこで、いくつかのエピソードをお話ししてみようと思う。

（頑張る人）　高校のインターハイで上位入賞した人が自己推薦で入学してきた。よくご存じのスポーツ推薦入学は入部が義務と言っていいと思うが、高校時代の実績・能力をアピールポイントとする自己推薦入学は入部は任意である。その人は入部せず、学費の関係で新聞配達のアルバイトを始めた。朝は夜中の３時位から、午後は２時位からだそうだ。しかし配達していると授業に出る時間の確保も困難になり、１年間はやりとげたがその後は別の手段を講じて学費確保、入部、その後熱心に練習を積み秋のリーグ戦では大活躍してくれた。

これは本人の努力という話だが、入部前の１年間を、あるコーチが時々メールでコンタクトを取ってきてくれた成果でもある。

そして、毎朝の新聞はこうして配達されてくるんだな、と有難く思ったことでもあった。

（誘惑に負けた人）　各大学で組織する学生弓道連盟があり委員がいる。その会議があった日の翌日、私が道場に行くと担当委員が板の間の隅に正座している。１時間ほど座っていたか。他の部員に理由を訊くと、「馬鹿馬鹿しい話です。」

結局こういうことだった。会議は日本武道館の会議室で開かれるのだが、その日はたまたま武道館で、人気アイドルグループAKB48の総選挙（ファン投票）イベントが行われていた。彼は熱心なファンでたまらずそっちへ行き会議は欠席してしまった。翌日に忽ち発覚して、板の間正座を命じられた次第。
実は、私はこういう話は好きな方である。

（退部した人　その理由いろいろ）

退部も結構多いが、その理由にはその人の個性、社会情勢が垣間見えると言えるのかもしれない。

１.「僕はオタク系なんです。ここでそういうお友達を作りたかったんですけど、出来ませんでした。だから退部します。」

２.「僕は株のデイトレーダーなんです。夕方の練習に参加するとその時間がなくなるので退部します」

３.「入部したときから１年間だけやってみようと思っていました。一生懸命やったし試合にも出させて貰ったけど、１年たったから退部します。」

彼にとって弓道は単なるお稽古事だったのだ。

勿論、自宅が遠い、学業との時間が調整できない、資格の勉強をしたい等の諸々まっとうな理由は多い。退部してから挨拶状をくれた人もいた。

（ある保護者）　親が入部に反対して捻じ込んできたこともあった。「息子は入部したが、親としては勉強に専念させたい」という強硬な意見だった。

（飲み会）　シーズン終了後等には飲み会もある。未成年飲酒、一気飲み、飲酒強制の禁止などは我々も言うが、彼らは意外なほど飲まない。しかし、芸出し（余興）に突然指名されても、すぐに立って狭い廊下でコントをやり始めるというのは単なる持ちネタ披露なのか、それともテレビのお笑いの流れか。

（最後に、一昨年3.11の地震直後の対応）

発生時には私は女子練習で東伏見にいた。練習は即刻中止、部員にも帰宅困難者が多く発生した。しかし、ある部員は下宿している狭い部屋に数人を泊め、ある部員はストレスで心細い思いをする東北出身の部員を自宅に１週間泊めてあげるなど、ご家族を巻き込んで、それぞれがそれぞれの判断での一致協力、適切に対応してくれたことを有難く思った。このときは昔に変わらぬ連帯を見たと思った。

（写真は昨年春男子合宿の写真。筆者は中央。学生は正式行事のときは制服制帽です。外国人も一人。）

タイ語の勉強

村上　柾（昭和44年　政経）

現職の頃、タイ国バンコクに合弁会社及び現地法人を設立する仕事に携わりました。設立後は、関係会社役員として現地訪問の回数が格段に増加し、年間４～５回の短期出張を10年近く繰り返していました。勿論、当時は現地駐在員任せでタイ語は全くと言ってよいほど理解できていませんでした。

然しながら、永年通った関係でタイ民族の日本人に対する親近感や同じ仏教徒としての価値観等に年々共感を覚え、退職後はタイ語の勉強でもしてみようとの意識が芽生えてまいりました。

又、将来の希望というか夢として現地、特に北部の古都であるチェンマイでのロングステイも視野の一部に入れておりました。

この為、退職直前、３年前の10月から土曜日にタイ語スクール通いを始め、満３年強が経過したところです。とは言え、週１回１時間半程度の勉強であり、更にスクールを離れるとタイ語との接点が全くないことから上達には程遠いのが現状です。

さて、タイ語ですが文字はインド文字の流れを汲み、多くの字に○が組み入れられています。日本人が最初に目にした場合、これが文字かと驚き、非常に近寄り難い印象を持たれる人が殆んどでしょう。

母音は日本語と比べ数が多く、短母音・長母音合わせて18音あります。子音は、低子音・中子音・高子音の3種あり、全部で42字ですから“いろは”48文字より若干少なめです。以上の子音と母音を組み合わせて文字化するのですが、第１の問題は声調です。

皆さんも中国語に四声があることはご存知でしょうが、タイ語にはなんと五声もあるのです。

それは、⑴flat→　⑵down↘　⑶down-up↺　⑷up↗　⑸up-down↝、各単語にはこの声調記号が付いたり、短母音化記号が付いたりして複雑化されます。勿論、同じスペルでも声調が変わると意味は全く異なります。例えば、“maa”の場合ですが、第１声で発音すると“来る”と言う意味であり、第４声では“馬”になります。又、文字では若干違うのですが、同じ発音を第５声ですると“犬”になります。私たち日本人も特に声調とは意識していませんが、同音で意味の異なる語を多く持っています。代表的には、橋・箸・端でしょうか、文字であれば記号で理解可能ですが、口語ではこの声調を聞き取れないと意味が通じないことになってしまいます。漢字同様、単語ごとに声調と共に覚えていく必要があります。

第２の問題は、末子音の変化です。末子音とは、単語の最後の子音ですが、多数の子音が文字通りではない発音に変化します。

Y・R・LはNと発音され、C・CH・D・S・THはTと発音します。

タイの王様は、プミポン国王ですが英文表記では“PUMIPOL”と記載され、外人にはプミポルとしか読めません。通常、名刺交換ではタイ語と英文が併記され、外国人はどうしても英文表記に目が行ってしまいます。まあ、国王の名刺を貰う事は無いでしょうが。余談ですが、同国王は83歳で在位65年を超えており、確か昭和天皇崩御以降で最長在位の筈です。

第３の問題は、黙字です。単語には含まれている文字を発音上は無視する事があります。特に“ｒ”の字はその傾向が強いようです。代表的な挨拶言葉である“サワディー・クラップ”は口語では“ｒ”が抜けて“サワディー・カップ”と発音されるのが普通です。この言葉は非常に便利で多くの意味になります。“お早う”“ごきげんよう”“こんにちは”“さようなら”“またね”全てこの１語で済みます。尚、女性が発音する場合は“サワディー・カー”と語尾が変化します。この“カー”は日本語の“はい”にも相当し、最初にバンコク事務所で女性事務員が電話しているのを聞いて、“カー、カー、カー・・・・”と何回も繰り返すのでカラスかと勘違いした事があります。

上の末子音“L”とこの“R”が入った三越並の有名デパートがあります。その名はCentralですが、rが抜け１が変化するので、現地の人は“センタン”と発音しています。

さて、第４の問題です。それは文章に句読点が無い事です。皆さん、日本語の平仮名または片仮名だけが連続している文章を思い浮かべてください。どこで切るのか、困惑しますよね。

例えば、“キョウハイチニチジュウアメガフリガイシュツスルコトガデキナカッタ”です。日本語であれば、何とか読み解く事ができますが、これがタイ語だと、理解できる単語を文中に探し、切れ目を付けて判読する事になります。タイ人であれば、小学生から馴れていて簡単でしょうが、外国人にはとても時間が掛かります。

この他にも例外や子音の再読、省略記号、反復記号、低子音の高子音化など数多くの規則が有るようですが、現在未だ勉強していません。一通りの勉強を終えるまで継続するつもりです。

では皆さん、“サワディー・クラップ”

部会案内一覧

詳細は本誌の各部会報告をご覧いただき、興味をお持ちの部会にお気軽にご連絡下さい。平成25年３月現在

部会名	部会長	連絡先 電話／Fax	参加人数	会費	活動概要
囲碁	大久保健治		10数名	300円	毎月１回（下目黒住区センター）
カラオケ	田畑　繁		10数名	3,000円 女性2,000円	毎月　第２金曜 午後４～７時 （コート・ダジュール目黒駅西口店）
グルメ	猪名川一雄		15～20名	5,000円～	年５～６回　程度 「楽しい」がキーワードです
ゴルフ	大杉　邦雄		20～30名	20,000円程度	年２回　春秋 目黒通りバスで送迎
ウォーキング	牧野　武夫		15～20名	なし （各自負担）	シーズン中は毎月１回程度
麻雀	鵜野　洋治		10数名	3,000円	年６回　武蔵小山“サン”および 渋谷“スリーハンドレッド”
美術・歴史鑑賞	後藤　克彦		15～20名	その都度	年４～５回
旅行	井村　正陽		20～30名	その都度	年２回　春秋
若木会	中西　元樹		10名程度	その都度	年数回の食事会等の他、幅広い層の参加による「心の若木会」も数回開催
よん月会	土川　俊雄 （井村代理）		20～30名	4,000円	毎月　第４月曜　午後６～８時 （「やるき茶屋」都立大学店）
俳句	佐藤　喜孝		約15名	3,000円／年	毎月　第３金曜　午後２～５時 下目黒住区センター
ボランティア活動推進	稲垣　博信		全員	その都度	各種ボランティア活動および 各種支援募金の実施
広報編集委員会	地田　博昌	eメール：meguro-tomonkai@nifty.ne.jp URL：http://homepage3.nifty.com/me96tomon-waseda/			

新入会員

箕輪　由佳　（平成７年　教育）
（世田谷区弦巻在住）

趣味　テニス、ヨガ、山登り

これまでは友人に誘ってもらい非正会員の立場でたびたび若木会に参加させていただいておりましたが、このたび入会させていただくことになりました。よろしくお願い致します。

ＨＰ便り

目黒稲門会ではホームページ（HP）とともにメーリングリスト（ML）で情報の共有をはかっています。MLのメールが届いていない方で登録をご希望の方は事務局までご一報願います。

ご意見･ご要望等はお気軽に電話･FAXまたはメール（本会報トップに記載）でお願いします。

（小杉　記）

編集後記

今号から「各部会からの案内･報告」欄に新しく「早稲田スポーツを観戦する会（仮称）」が登場しました。学生スポーツへの関心が高まっている中、同窓の仲間が一緒に母校の応援・観戦をする楽しみは、またひとしおかと思います。

７月の総会での正式な「部会」発足を目指し、昨年12月に活動を始めました。会報にもデビューです。応援・観戦には特別な技能も知識も体力も要りません。気軽に参加して大いに盛り上がりましょう。

今年は、９月のIOC総会での2020年夏季オリンピック開催都市選に東京が立候補したこともあって、招致運動がマスコミをにぎわしています。国内支持率が78％と高いマドリード、イスラム圏初の五輪となるイスタンブールと競争相手は手ごわい都市ですが、東京開催となったらうれしいですね。

早稲田スポーツを観戦する会の特別企画で、揃って世界一のアスリートたちの応援・観戦が出来るかもしれません。

（地田　記）